



ごちそうの雑草 おいしそうに除草

今年も5月から帷子地区センターで「ヤギさん除草隊」によるのり面除草が始まり、人では作業が難しい傾斜でもヤギたちは軽々と駆けて、雑草を食べていました。

人力で除草するよりもコストが抑えられるこの方法は平成26年から行っており、今年は10月までの除草を予定しています。

ヤギさん除草隊を見ているとなんだか癒されますね。今後の日程は市HPで確認できます。



ホームページ

明智光秀公供養祭を生誕地で

明智光秀公の440回忌となる供養祭が明智氏ゆかりの寺「天龍寺」で、命日とされる6月13日に行われました。

この供養祭は明智城址保存会が昭和48年から毎年開催しており、例年は保存会会員や関係者などが集まり記念講話なども行っていましたが、新型コロナウイルスの影響で昨年に続き、住職の読経と保存会会長の焼香のみを行いました。

会長の林則夫さんは「大河ドラマで光秀が願ったように、平らかな世に早くなるといい」と思いを話してくれました。



「麒麟がくる」裏話



可児市長 高橋 洋

3年前の平成30年4月、明智光秀を主人公とするNHK大河ドラマ「麒麟がくる」の制作が発表されました。

これまで裏切者の代名詞のように扱われていた光秀が主役として描かれる。しかも、光秀生誕地可児市説を推す小和田哲男先生が時代考証される。また、若き武将達の群雄ドラマ、光秀を巡る女性達の愛情ドラマなど、今までの大河ドラマと異なる設定も女性や若者を引き付けるのではないかと。可児市の知名度を高められるのではないかと期待が大きく膨らみました。

そして、開園後最大のリニューアルが平成31年3月に計画されていた花フェスタ記念公園は、まさに明智荘の一角にあり、明智城跡とは目と鼻の先。ここに大河ドラマ館を設置して、全国から多くの人を迎えることができれば、大河ドラマ終了後も可児市の情報発信拠点として、一過性に終わらない観光PRができると考えました。

最大の関心事であり心配事は、「大河ドラマの中で、光秀の故郷がどのように描かれるのか」でしたが、それ

が杞憂であることが判明したのが、令和元年7月19日に訪問した大河ドラマの撮影現場でした。出迎えてくれた中野亮平プロデューサーの一言、「ここが明智荘です」。主演の長谷川博己さんは「ぜひ一度現在の明智荘を訪ねたいですね」。石川さゆりさんは「明智荘の人たちは、戦国時代なのにとても穏やかに暮らしているんですよ」。出演者の皆さんにお会いし、不思議と安心しました。

実際に大河ドラマの中で明智荘は、人々が穏やかに暮らし、誰もが分け隔てなく接し合う、人間愛に溢れた場所として描かれ、可児市が目指している「おだやかに暮らせるまち」のイメージそのものでした。

花フェスタ記念公園のリニューアルが一段落し、大変賑わっている中で、令和3年5月16日に大河ドラマ館は「明智荘の館」として再登場しました。

今は、新型コロナウイルスの影響で本格的なPRは自粛していますが、ここを拠点に全国に向けて可児市のシティプロモーションを仕掛けていきます。

